



TITLE:

系統研究部門(I 研究所の概要)

AUTHOR(S):

江原, 昭善; 野上, 裕生; 相見, 満; 瀬戸口, 烈司

CITATION:

江原, 昭善 ...[et al]. 系統研究部門(I 研究所の概要). 霊長類研究所年報
1983, 12: 23-24

ISSUE DATE:

1983-01-19

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/163065>

RIGHT:

Enzymatic assay of reduced glutathione using glutathione S-aryltransferase with *o*-dinitrobenzene as a substrate. J. Biochem. 90, 1237-1242.

- 4) Sogawa, K., Y. Ichihara and K. Takahashi (1981): Comparison of some characteristics of membrane-bound neutral proteinase activity in the microsomal fractions of rat kidney and small intestine. J. Biochem., 90, 1243-1248.
- 5) Sogawa, K., Y. Ichihara, K. Takahashi, Y. Fujii-Kuriyama and M. Muramatsu (1981): Molecular cloning of complementary DNA to swine pepsinogen. J. Biol. Chem., 256, 12561-12565.
- 6) Ichihara, Y., K. Sogawa and K. Takahashi (1982): Occurrence and some properties of membrane-bound neutral proteinase in the microsomal fraction of rat skeletal muscle. J. Biochem., 91, 87-95.
- 7) Nakamura, S., N. Nakayama, K. Takahashi and Y. Kaziro (1982): Primary structure of the polypeptide chain elongation factor Tu from *E. coli*. I. Amino acid sequence of fragment B. J. Biochem., 91, 1047-1063.
- 8) Maita, T., G. Matsuda, O. Takenaka and K. Takahashi (1981): The primary structure of adult hemoglobin of musk shrew (*Suncus murinus*). Hoppe-Seyler's Z. Physiol. Chem., 362, 1465-1474.
- 9) Ueda, S., O. Takenaka and K. Omoto (1981): Studies on the electrophoretic variation of soluble glutamic-oxaloacetic transaminase (s-GOT) in non-human primates. J. Anthropol. Soc. Nippon, 89, 55-62.
- 10) Takenaka, A. and O. Takenaka (1982): Postnatal changes in the blood of Japanese monkeys (*Macaca fuscata*): I. Immunoglobulins Ig G, Ig M and Ig A. Primates, 23, 298-302.
- 11) Kageyama, T., S. Y. Takahashi and K. Takahashi (1981): Occurrence of thiol proteinases in the eggs of the silkworm, *Bombyx mori*. J. Biochem., 90, 665-671.
- 12) 一瀬雅夫・三木一正・降旗千恵・景山節・丹

羽寛文・岡博・織田敏次・松島泰次郎・高橋健治 (1981): ヒト血清 Group II ペプシノーゲン (PG II) の radioimmunoassay。日本消化器病学会雑誌, 78, 2275-2284.

学 会 発 表

- 1) 十川和博・市原慶和・高橋健治・藤井義明・村松正美 (1981): ヒトペプシノーゲン遺伝子の単離とその構造。第54回日本生化学会大会, 仙台。
- 2) 浅岡一雄・高橋健治 (1981): 脳組織におけるグルタチオン S-トランスフェラーゼの性状。第54回日本生化学会大会, 仙台。
- 3) 市原慶和・十川和博・高橋健治 (1981): プレペプシノーゲンのシグナル配列の一次構造について。第54回日本生化学会大会, 仙台。
- 4) 長島庸子・中山伸一・高橋健治・森山昭彦・植松康子・渡辺徳子・吉田政幸・星野正松 (1981): スピンラベル法による Pepsin および RAP の活性部位近傍のミクロ環境解析。第43回日本化学会春季大会, 東京。
- 5) 竹中 修・Edy Brotoisworo・渡辺邦夫 (1982): セレベスマカクの分布と種間差。第26回プリマーテス研究会。
- 6) 竹中晃子・竹中 修・大内めぐみ・高橋健治 (1982): ニホンザルの胎児型ヘモグロビン鎖のアミノ酸配列。第26回プリマーテス研究会。
- 7) 景山 節・高橋健治 (1981): ペプシノーゲンの活性化ペプチドの一次構造とその遊離機序。第32回タンパク質構造討論会, 仙台。
- 8) 景山 節・高橋健治 (1981): ニホンザルペプシノーゲンの活性化機構。第54回日本生化学会大会, 仙台。

系統研究部門

江原昭善・野上裕生

相見満・瀬戸口烈司

霊長類の系統研究を遂行するにあたって, いろいろなアプローチが可能であるが, まず最初に手がけるべきもっとも重要なことは, 研究対象になる資料の収集・標本作製・整理である。

このような理由から, 当研究部門では, 一方では南米・東南アジア・アフリカなどの海外調査を

通じて、化石の原資料や現生霊長類の骨格やレプリカ標本などの収集に努め、また一方では、所内で現生霊長類の形態資料完備に努め、資料委員会との協力のもとに、かなり充実してきた。これらの資料は、霊長類各種の系統的位置の決定はもちろん、各形質の系統関係分析にも不可欠のものである。

以上のほかに、当研究部門では東海地方のファウナを明らかにするため、獣骨の収集にも目を向けている。というのは、当地方には数多くの先史遺跡があり、鳥獣骨の伴出も多い。しかし、それらの同定のための資料がきわめて不完全で、他機関への期待もかなわない。したがって、当部門では機会あるごとに、これら鳥獣骨の収集に努め、いまではかなりの同定ができるまでになった。

研究概要

1) 霊長類各分類群の比較形態学的研究

江原昭善

1. ヒトおよび霊長類の下顎骨の機能的・形態学的研究
2. ヒトおよび霊長類各分類群における頭蓋底部の形態と Posture の関連
- 2) ケニアおよびエチオピアにおける化石霊長類および化石人類の研究
- 3) 東海地方先史遺跡出土人骨・動物骨の研究
 1. 出土人骨 江原昭善・松本真・木下実
 2. 動物骨 相見満・江原昭善
- 4) スマトラにおける霊長類の形態学的研究
相見満・Amsir Bakar
江原昭善
- 5) 硬組織の形態学的研究 野上裕生
- 6) スマトラにおける第四紀地史研究
野上裕生
- 7) ジャバ島における第四紀哺乳類の研究
相見 満
- 8) 第三紀食虫類・原猿および有袋類の研究
瀬戸口烈司

1. 南米出土化石について
2. 南北アメリカ大陸とヨーロッパ大陸出土の第三紀食虫類化石の対比

総説

- 1) 江原昭善(1981): 化石人類の言語。大修館「言語」vol. 11, No. 1。

- 2) 瀬戸口烈司(1981): 古生物学からみたヒト臼歯の特性——トリボスフェニック型臼歯の再編成過程を中心にして——歯界展望 vol. 58, Nos. 1, 2, 3。
- 3) 江原昭善(1982): 顔面・顎頭蓋の基本構造とその適応的意義。成長 vol. 20, No. 2, 3, 4 合併号: 185~190。
- 4) 瀬戸口烈司(1982): ホエザルの祖先の中新世のスタートニアに性的二型は認められるか。季刊人類学, 13: 3-27。

論文

- 1) Aimi, M. (1981): Fossil *Macaca nemestrina* (Linnaeus, 1766) from Java, Indonesia. *Primates*, Vol. 22, No. 3: 409-413.
- 2) 相見満(1981): ヤチネズミ類の分類。哺乳類科学, 42号: 21~25。
- 3) Nogami, Y. (1981): Enamel Prism of Mammalian Tooth, 京大紀要, 地鋳編, 47巻, 2号

報告

- 1) 江原昭善・木下実(1982): 岡崎市真福寺東谷遺跡出土の人骨について。
岡崎市教育委員会報告書
- 2) 江原昭善・木下実(1982): 愛知県朝日遺跡出土の人骨について。
- 3) 江原昭善・木下実(1982): 愛知県知多市細見遺跡出土人骨について。
- 4) Preliminary Report on the Stratigraphical, Palaeoprimatological and Prehistorical Research along the Awash River, 1980. *Studies on Living and Fossil Primates in Africa*, 1981. Grant-in Aid for Scientific Research Reports by Grants-in-Aid for Overseas Scientific Survey.

学会発表

- 1) 瀬戸口烈司・茂原信生(1982): 中新世のスタートニア(ホエザルの祖先)に性的二型は認められるか。第26回プリマーテス研究会。
- 2) 瀬戸口烈司(1982): スタートニア——ホエザルの系列の臼歯の形態と機能の特性。第26回プリマーテス研究会。